

第42回新日美展 東京都議会議長賞受賞の青山さん

北海道新聞 大々的に称える

回 会 報

166号

新日本美術協会

事務局
横浜市港南区港南台
1-39-5
鈴木忠義方
Tel.045-832-0504

編集委員
石原修
篠光定
早田美智子
小高峯夫

原稿常時募集
次号 令和元年8月予定

マリモ、長老描き全国表彰

【阿寒湖温泉】全国規模の美術公募展「第四二回新日美展」(新日本美術協会主催)大作絵画部門で、阿寒湖温泉(釧路市)の青山絹江さん(八一)の油彩画「聖なる稗藻」が東京都議会議長賞を受賞した。受賞作は二〇一八年秋の東京都美術館に続いて二〇一九年三月には京都府京都文化博物館での京都巡回展にも展示された。青山さんは「全国に阿寒湖とマリモをアピールすることにつながれば」と喜んでいる。

同展は大作絵画、小品絵画、工芸の三部門に計三一点の応募があった。このうち大作絵画には一九九点が寄せられ、四〇点が入賞。道内からは青山さんだけの作品が選ばれた。受賞作は、阿寒湖温泉恒



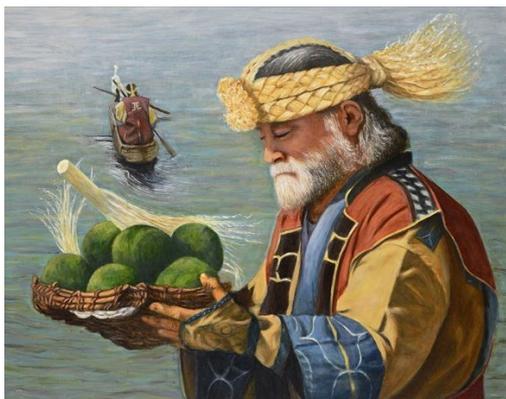
青山絹江さん

例の「まりも祭り」で行われるマリモに祈りをささげる儀式が題材。マリモの柔らかかな質感を陰影や色合いの変化で表現し、マリモを掲げたアイヌ民族のエカシ(長老)の温かい表情や、長老の衣装にほどこされたアイヌ文様を再現。背後にはマリモを乗せた丸木舟が浮かぶ阿寒湖を描いた。青山さんは家族で営む土産店「民芸の青山」で店番の合間に商品の木彫りをスケッチして絵心を鍛えた。六〇代で油彩画を始め、一〇年前

から阿寒湖アイヌコタンの人々を題材にし、祈りの儀式「カムイノミ」や古式舞踊などを描いてきた。

今回の作品は五月から取り組んだ。七月にリンパ節が腫れて体調を崩し作業を中断したが、一カ月後に再開。毎日最低二時間筆を持ち、九月下旬の締め切りに間に合わせた。「阿寒湖温泉街活性化のためにも、絵でマリモやアイヌ文化の魅力を全国に伝えたい」と思い頑張った」と青山さん。

東京都議会議長賞を受賞した「聖なる稗藻」二一六×九一cm



「絵でアイヌ文化発信を」

(新聞掲載記事を引用しました)

委員コラム



早田美智子

朝日新聞の『人生の贈り物』という欄に野見山暁治氏が登場している。九八才の現役画家だ。

なぜ絵を描くのかよく聞かれるという。曰く。「どう答えていいのか、僕も分からない。そもそも良い絵を描こう、という覚悟がない」

飄々として、いきなり事の芯をつく。「ご飯を食べるようにずっと描き続けた。実際に描いてみないと次が見えてこない。この楽しみに終りはないんです」と。

「ご飯を食べるように」。何と素敵な表現だろう。私も、と思いながらふと現実が頭を掠めた。溜まり続ける過去の「作品」の数々…。狭いマンションの一室では「ご飯を食べるように描き続ける」のは至難の業だけれど、気分はそっくり野見山さんだ。なぜ描くかなんて聞かれたら、私だって「絵が好きだから」としかいいようがない。絵を描くことは自分を表現することだと最近になって強く思うようになった。風景を描くことは目の前の実景を写すだけではない。そこまでは分かるのだけれど、さて、それをどう表現したらいいものか。永遠の課題のようで、ずっと描き続けるしかなさそうである。